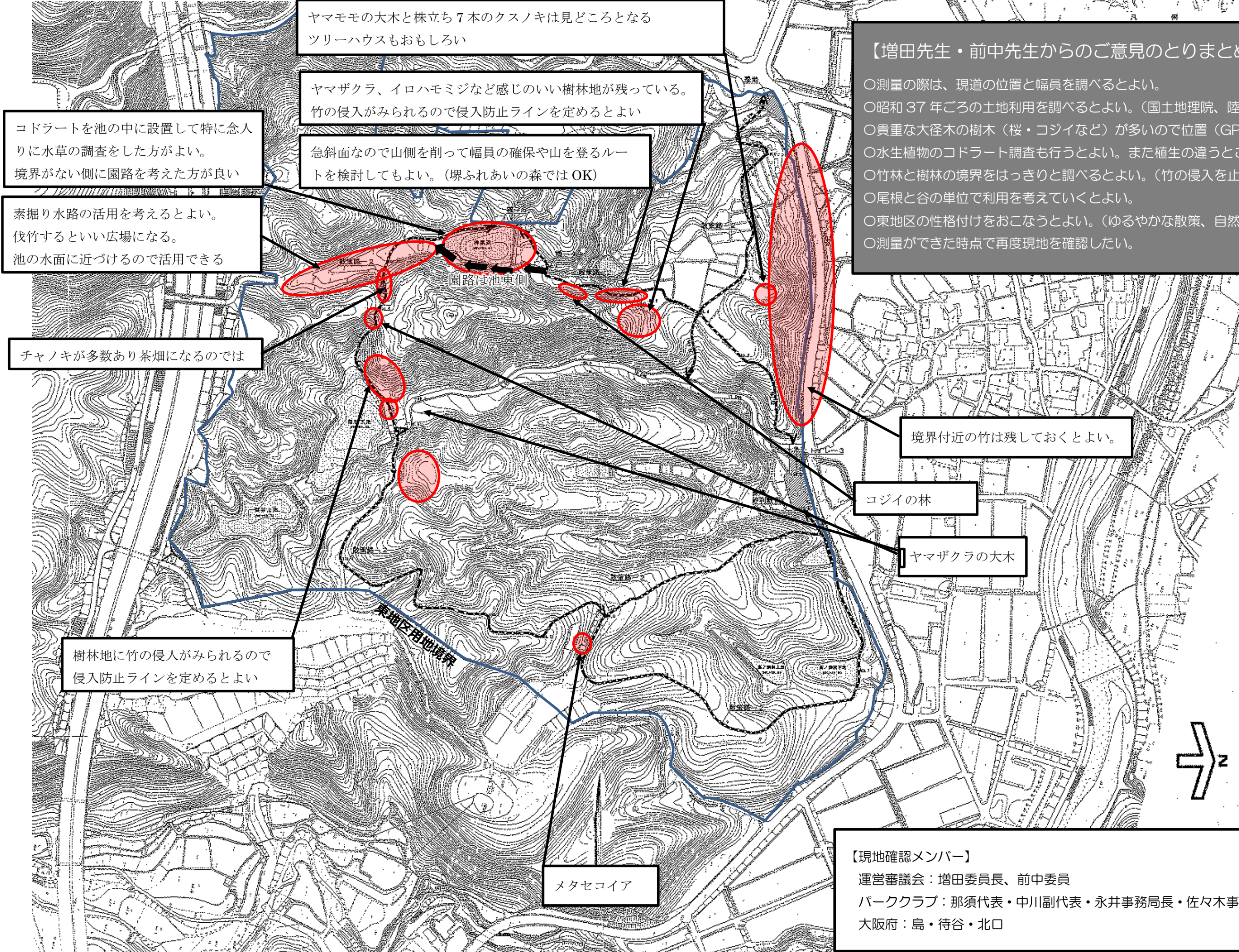


泉佐野丘陵緑地 東地区現地確認

平成 28 年 5 月 18 日

協議③



コドラートを池の中に設置して特に念入りに水草の調査をした方がよい。境界がない側に園路を考えた方がよい

素掘り水路の活用を考えるとよい。伐竹するといい広場になる。池の水面に近づけるので活用できる

チャノキが多数あり茶畑になるのでは

樹林地に竹の侵入がみられるので侵入防止ラインを定めるとよい

ヤマモモの大木と株立ち7本のクスノキは見どころとなるツリーハウスもおもしろい

ヤマザクラ、イロハモミジなど感じのいい樹林地が残っている。竹の侵入がみられるので侵入防止ラインを定めるとよい

急斜面なので山側を削って幅員の確保や山を登るルートを検討してもよい。(堺ふれあいの森ではOK)

メタセコイア

【増田先生・前中先生からのご意見のとりまとめ】

- 測量の際は、現道の位置と幅員を調べるとよい。
- 昭和37年ごろの土地利用を調べるとよい。(国土地理院、陸軍地図、航空写真)
- 貴重な大径木の樹木(桜・コジイなど)が多いので位置(GPS)を落とすとよい。
- 水生植物のコドラート調査も行うとよい。また植生の違うところに設置するとよい。
- 竹林と樹木の境界をはっきりと調べるとよい。(竹の侵入を止めるラインを定める)
- 尾根と谷の単位で利用を考えていくとよい。
- 東地区の性格付けをおこなうとよい。(ゆるやかな散策、自然のまま……)
- 測量ができた時点で再度現地を確認したい。

境界付近の竹は残しておくともよい。

コジイの林

ヤマザクラの大木

【現地確認メンバー】

運営審議会：増田委員長、前中委員

パーククラブ：那須代表・中川副代表・永井事務局長・佐々木事務局長補佐

大阪府：島・待谷・北口

●植生調査特記仕様書（案）

①相観植生図の作成

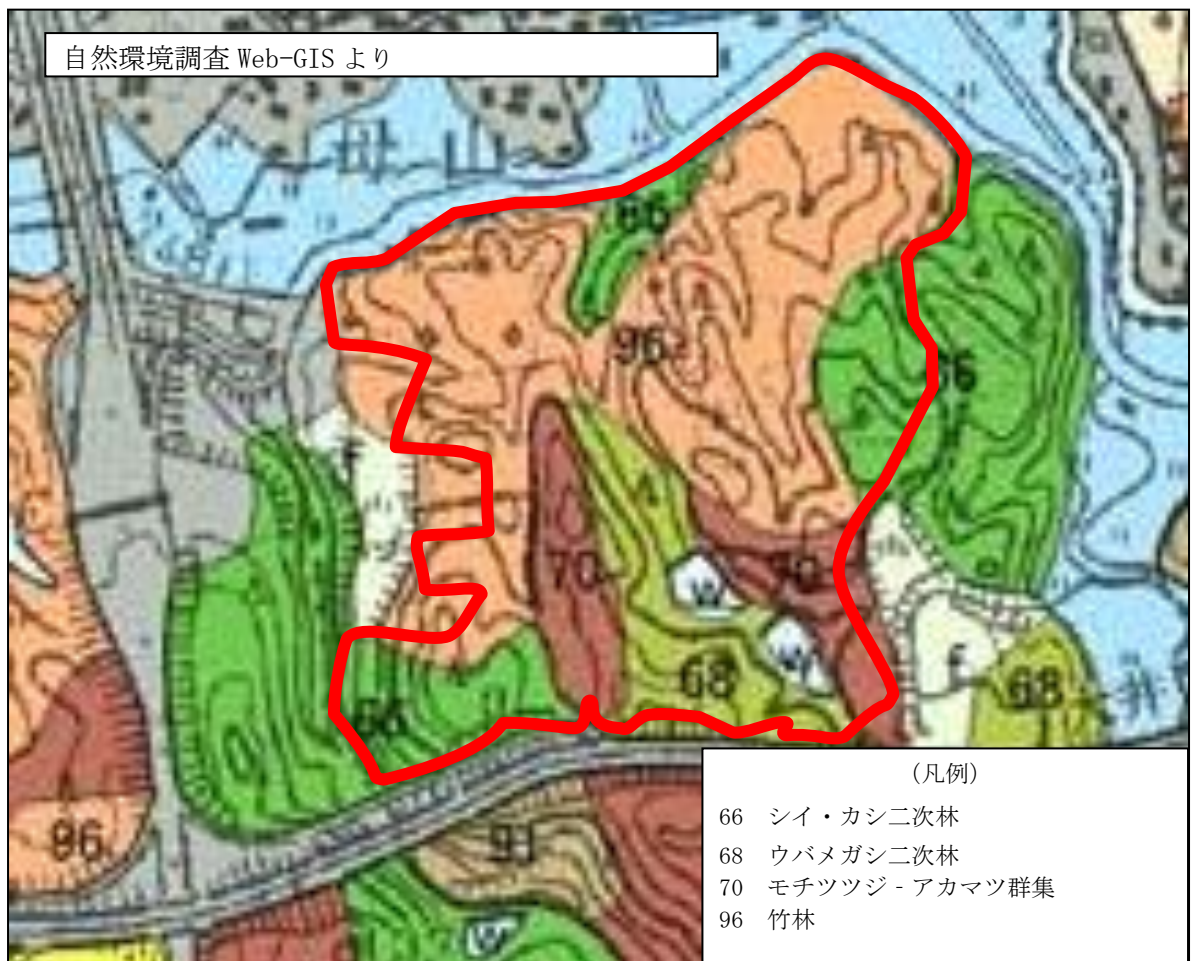
対象区域全域における現地踏査により、林分の状況を把握し、相観植生図を作成する。

②対象区域の魅力や資源発掘を目的とした、植生調査（夏～秋に実施）

環境省自然環境局生物多様性センター「自然環境調査 Web-GIS」によると、対象区域である東地区は4つのタイプ（シイ・カシ二次林、ウバメガシ二次林、モチツツジ - アカマツ群集、竹林）に分類されているため、周辺地区で植物社会学的に以下のコードラート調査（被度・群度）を実施する。調査枠の四隅に杭を打ち、調査場所を明示すること。

	コードラートの一辺 (m) ※1	コードラート数 (箇所)
シイ・カシ二次林 (66)	20	5
ウバメガシ二次林 (68)	20	5
モチツツジ - アカマツ群集 (70)	20	5
竹林 (96)	20	5
水生植物	20	3

※ 1: 各群落の高さを1辺とする正方形



③ 希少植物、人為影響下の植生、特徴的な樹木、人為的活動跡の把握

今後の公園設計に活用するため、対象区域である東地区内のツバキやチャノキなど人為的影響下の植生、希少植物、巨木（ヤマザクラ・コジイなど）等の特徴的な樹木については、

位置やサイズを明確にし、希少性などを学術的に評価すること。また、踏み分け道や水田・畑作の跡地など人為的活動跡を把握し、位置を明確にすること。

④ 竹林に移行している区域及び竹林区域の把握

既存林に竹が侵入しつつある区域及び竹林の区域を把握し、図化すること。

⑤ 施設計画の見直し及び活動イメージの提案

調査結果を定量的・定性的に評価し、施設計画の見直しや活動イメージの提案に活かすこと。

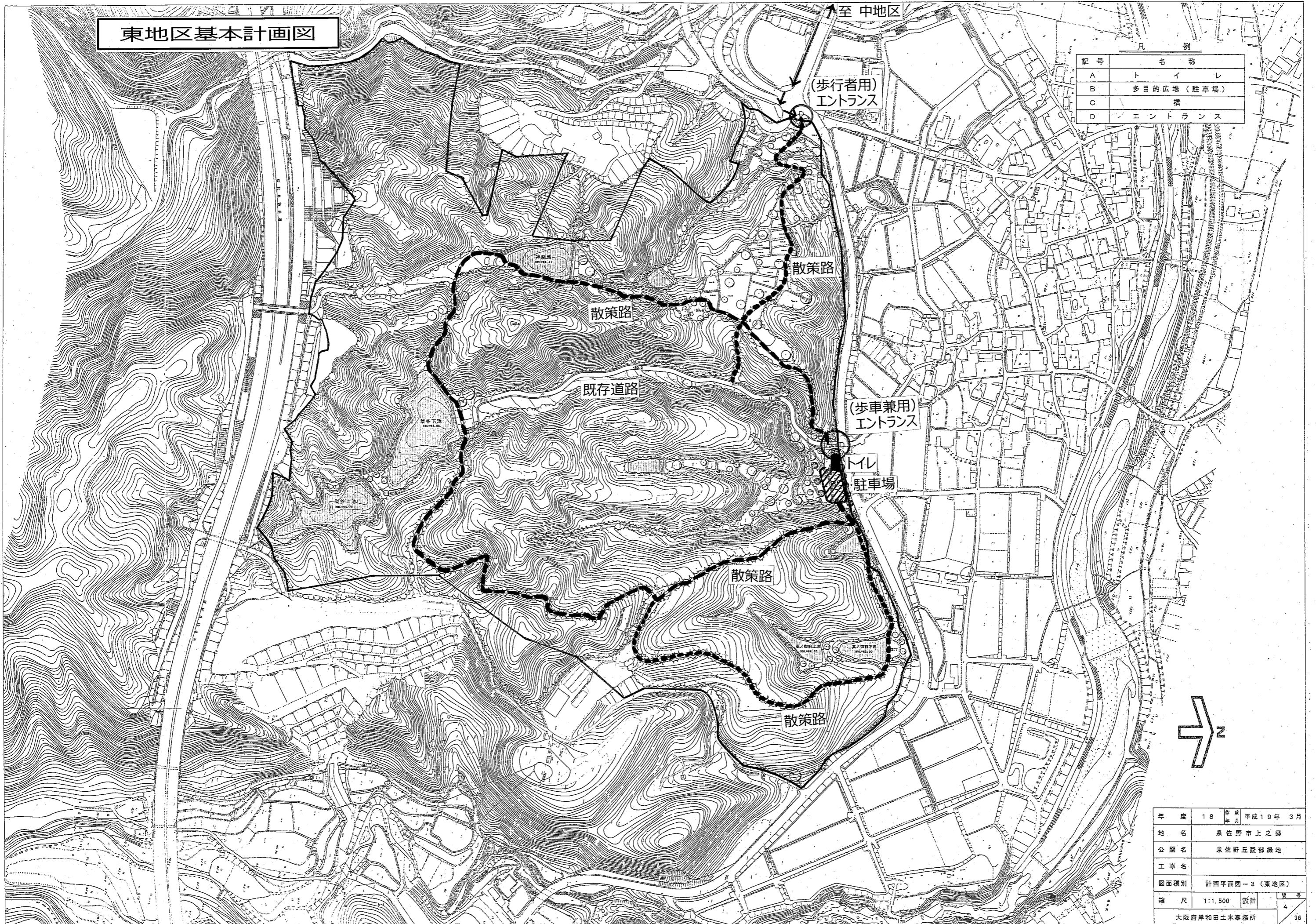
⑥ パーククラブとの情報共有

調査結果はパーククラブに適宜報告し、情報共有を図ること。

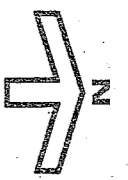
⑦ 現場講習会の開催

パーククラブを対象にした、植生調査および評価手法などの現場講習会を開催（全2回程度）すること。

東地区基本計画図



記号	名称
A	トイレ
B	多目的広場(駐車場)
C	橋
D	エントランス



年度	18	作成	平成19年3月
地名	泉佐野市上之郷		
公園名	泉佐野丘陵部緑地		
工事名			
図面種別	計画平面図-3(東地区)		
縮尺	1:1,500	設計	4
大阪府岸和田土木事務所			36

泉佐野丘陵緑地東地区について（たたき台）

■ 整備スケジュールイメージ

H28	H29	H30	H31	H32	H33
整備方針・測量・実施設計		多目的広場 (駐車場) 整備	トイレ整備	園路整備	協働作業 ----->

■ 基本計画での整備内容

- 入口 2か所（歩行者専用 1か所、車両出入口兼用 1か所）
- トイレ 1か所
- 多目的広場（駐車場）；砂利敷き 1か所
- 散策路

■ 課題

- 園内各地に広がっている竹林の拡大抑制（どこを重点的に行うか）
- 田畑跡地の大幅な竹林の伐採
- 休憩施設・協働作業の拠点施設の整備
- 水道・下水道・電気の引き込み
- 東地区⇄中地区のアクセス（将来的なプログラム展開の仕方）

※パークセンターから東地区歩行者用エントランスまでは約 1 km